

SHUJI NAKAMURA

LONDON
SPEAKER
BUREAU

▪ Inventor of the Blue LED



中村修二は、照明技術の大きな進歩である青色LEDの発明者として知られています。赤崎勇氏と天野博氏と共に、2014年のノーベル物理学賞「明るくて省エネルギーの白色光源を可能にした効率的な青色発光ダイオードの発明」を受賞しました。

LEDは、白熱電球の7分の1のエネルギーしか使用せず、最大100,000時間、最大で100,000時間持続する可能性があります。それらが広く使用されている場合、それは莫大なエネルギー節約と炭素排出につながる可能性があります。中村はまた、緑色LEDにも取り組んでおり、ブルーレイディスクやHD DVDに使用される白色LEDと青色レーザーダイオードの製造を担当しています。

Topics

- Academics
- Activists
- Asia
- Education
- Philosophers
- Society

中村は1979年に日亜化学工業に入社しました。1988年にフロリダ大学で客員研究員として1年間過ごしました。彼は、III族窒化物材料を使った青色LEDの研究を始めました。1990年代に、彼は最初のIII族窒化物ベースの青色/緑色LEDを開発しました。彼はまた、最初のIII族窒化物ベースのバイオレットレーザーダイオードを開発しました。

2000年以来、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の材料学科の教授を務め、またソリッドステートライティング&エネルギーセンターのリサーチディレクターも務めています。彼は100以上の特許を保有し、この分野で400以上の論文を発表しています。